

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年9月27日
【事業年度】	第67期（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）
【会社名】	フジパングループ本社株式会社
【英訳名】	FUJI BAKING GROUP CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 安田 智彦
【本店の所在の場所】	名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地
【電話番号】	052（831）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 野田 和男
【最寄りの連絡場所】	名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地
【電話番号】	052（831）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 野田 和男
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成21年 6 月	平成22年 6 月	平成23年 6 月	平成24年 6 月	平成25年 6 月
売上高 (百万円)	393,321	403,574	405,859	413,472	318,175
経常利益 (百万円)	8,380	10,100	8,954	8,132	7,464
当期純利益 (百万円)	4,175	5,441	1,978	3,775	2,499
包括利益 (百万円)	—	—	1,641	4,103	3,866
純資産額 (百万円)	63,201	66,405	67,739	71,647	75,298
総資産額 (百万円)	161,481	162,696	174,446	175,604	166,137
1株当たり純資産額 (円)	3,083.70	3,391.09	3,465.65	3,665.44	3,852.60
1株当たり当期純利益金額 (円)	214.67	270.62	101.24	193.21	127.88
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	39.1	40.7	38.8	40.8	45.3
自己資本利益率 (%)	7.0	8.2	3.0	5.4	3.4
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	12,779	16,261	9,544	13,455	15,304
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△8,501	△9,307	△10,654	△12,347	△9,141
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,965	△6,696	7,120	△2,320	79
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	22,035	22,293	28,303	27,091	33,333
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	5,803 (10,767)	5,864 (10,990)	5,976 (11,138)	5,922 (10,707)	5,859 (10,711)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 株価収益率については、当社株式は非上場であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成21年 6 月	平成22年 6 月	平成23年 6 月	平成24年 6 月	平成25年 6 月
営業収益 (百万円)	5,950	4,359	4,614	5,331	4,714
経常利益 (百万円)	3,314	1,614	2,235	2,832	2,196
当期純利益 (百万円)	47	956	1,158	2,485	1,861
資本金 (百万円)	4,682	4,682	4,682	4,682	4,682
発行済株式総数 (株)	30,540,400	30,540,400	30,540,400	30,540,400	30,540,400
純資産額 (百万円)	45,182	44,012	44,714	47,242	50,073
総資産額 (百万円)	66,254	64,163	67,720	70,106	75,291
1株当たり純資産額 (円)	2,208.55	2,251.96	2,288.11	2,417.52	2,562.36
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	10.00 (－)	10.00 (－)	10.00 (－)	11.00 (－)	10.00 (－)
1株当たり当期純利益金 額 (円)	2.47	47.56	59.28	127.16	95.23
潜在株式調整後1株当た り当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	68.2	68.6	66.0	67.4	66.5
自己資本利益率 (%)	0.1	2.1	2.6	5.4	3.8
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
配当性向 (%)	405.65	21.03	16.87	8.65	10.50
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	192 (－)	167 (1)	174 (－)	115 (－)	107 (2)

- (注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
2. 第66期の1株当たり配当額には、創立90周年記念配当1円を含んでおります。
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 株価収益率については、当社株式は非上場であるため記載しておりません。

2【沿革】

大正11年5月 名古屋市中区長岡町にパン和洋菓子製造販売の金城軒を創業。
昭和26年2月 名古屋市瑞穂区豊岡通りに富士製パン株式会社を設立。（資本金50万円）
昭和27年9月 名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地に新工場を建設移転。
昭和36年9月 豊明工場操業開始。
昭和39年5月 枚方工場操業開始。
昭和41年2月 フジパンストア株式会社（現・連結子会社）を設立。
昭和41年3月 富士製パン株式会社をフジパン株式会社と商号変更。
昭和41年4月 富士製パン株式会社を設立。
昭和41年9月 西春工場操業開始。
昭和42年5月 東京工場操業開始。
昭和44年5月 武蔵工場操業開始。
昭和44年6月 アーノルドフジ株式会社を設立。
昭和45年6月 富士製パン株式会社と株式会社昭和堂の両者を吸収合併。（資本金6億5,000万円）
昭和45年12月 横浜工場操業開始。
昭和52年4月 アーノルドフジ株式会社を吸収合併。（資本金8億5,000万円）
昭和53年8月 株式会社ミックメート（現・連結子会社、株式会社富士エコー）の株式取得。
昭和55年4月 山陽フジパン株式会社（東部フジパンストア株式会社）を設立。
昭和56年1月 岡山販売部営業開始。
昭和57年3月 日本サンシャイン株式会社（株式会社シルビア）の株式取得。
昭和57年4月 有償増資により資本金10億2,000万円。
昭和58年1月 無償増資により資本金11億2,200万円。
昭和59年5月 トーヨ製パン株式会社（株式会社四国フジパン）の株式取得。
昭和59年6月 四国販売部営業開始。
昭和60年3月 あけぼのパン株式会社（現・連結子会社）の株式取得。
昭和61年1月 瀬戸内製パン株式会社（現・連結子会社、株式会社中国フジパン）の株式取得。
昭和61年6月 タカラ食品工業株式会社（現・連結子会社、タカラ食品株式会社）の株式取得。
昭和61年7月 株式会社イケダ（現・連結子会社、株式会社九州フジパン）の株式取得。
昭和61年7月 株式会社いけすぎ（株式会社日本デリカーナ）の株式取得。
昭和61年12月 有償増資により資本金35億200万円。
昭和62年4月 福岡販売部及び熊本販売部営業開始。
昭和63年1月 株式会社日立フジを吸収合併。当社千葉工場とする。
平成2年2月 株式会社ベーカリーシステム研究所（現・連結子会社）を設立。
平成2年7月 有償増資により資本金46億8,208万円。
平成2年8月 神戸工場操業開始。
平成2年12月 九州フジパンストア株式会社（現・連結子会社）を設立。
平成5年10月 株式会社日本デリカフレッシュ（現・連結子会社）を設立。
平成5年11月 株式会社日本フーズデリカ（現・連結子会社）を設立。
平成5年11月 株式会社フジデリカ（現・連結子会社）を設立。
平成7年1月 株式会社永井製パン工場（現・連結子会社、株式会社ナガイパン）の株式取得。
平成10年7月 広島販売部営業開始。
平成12年2月 株式会社西部エフビーエス（現・連結子会社、株式会社エフベーカリーコーポレーション）を設立。
平成12年4月 長崎販売部営業開始。
平成14年3月 株式会社富士でりかぐるーぶ本社を株式会社日本デリカーナ、株式会社日本デリカフレッシュ、株式会社日本フーズデリカ、株式会社フジデリカの持株会社として設立。
平成16年6月 株式会社日本デリカフレッシュ（現・連結子会社）が株式会社日本デリカーナを吸収合併。
平成16年11月 九州フジパンストア株式会社（現・連結子会社）が東部フジパンストア株式会社を吸収合併。
平成18年5月 株式会社中国フジパン（現・連結子会社）が株式会社四国フジパンを吸収合併。
平成18年7月 会社分割によりフジパン株式会社（現・連結子会社）を新設し、当社は社名を「フジパン株式会社」から「フジパングループ本社株式会社」に変更。
平成20年6月 北越フジパンストア株式会社（現・連結子会社）を設立。

平成20年7月 株式会社富士でりかぐるーぶ本社を吸収合併。
 平成22年4月 株式会社東北フジパン（現・連結子会社）を設立。
 平成22年7月 株式会社富士エコー（現・連結子会社）が株式会社シルビアを吸収合併。
 平成24年7月 株式会社シルビア（現・連結子会社）を設立。

3【事業の内容】

当社グループは、当社（フジパングループ本社株式会社）、子会社18社及び関連会社1社により構成され、パン、洋菓子、和菓子等の製造及び販売並びに関連商品の販売を主な内容として事業活動を展開しております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

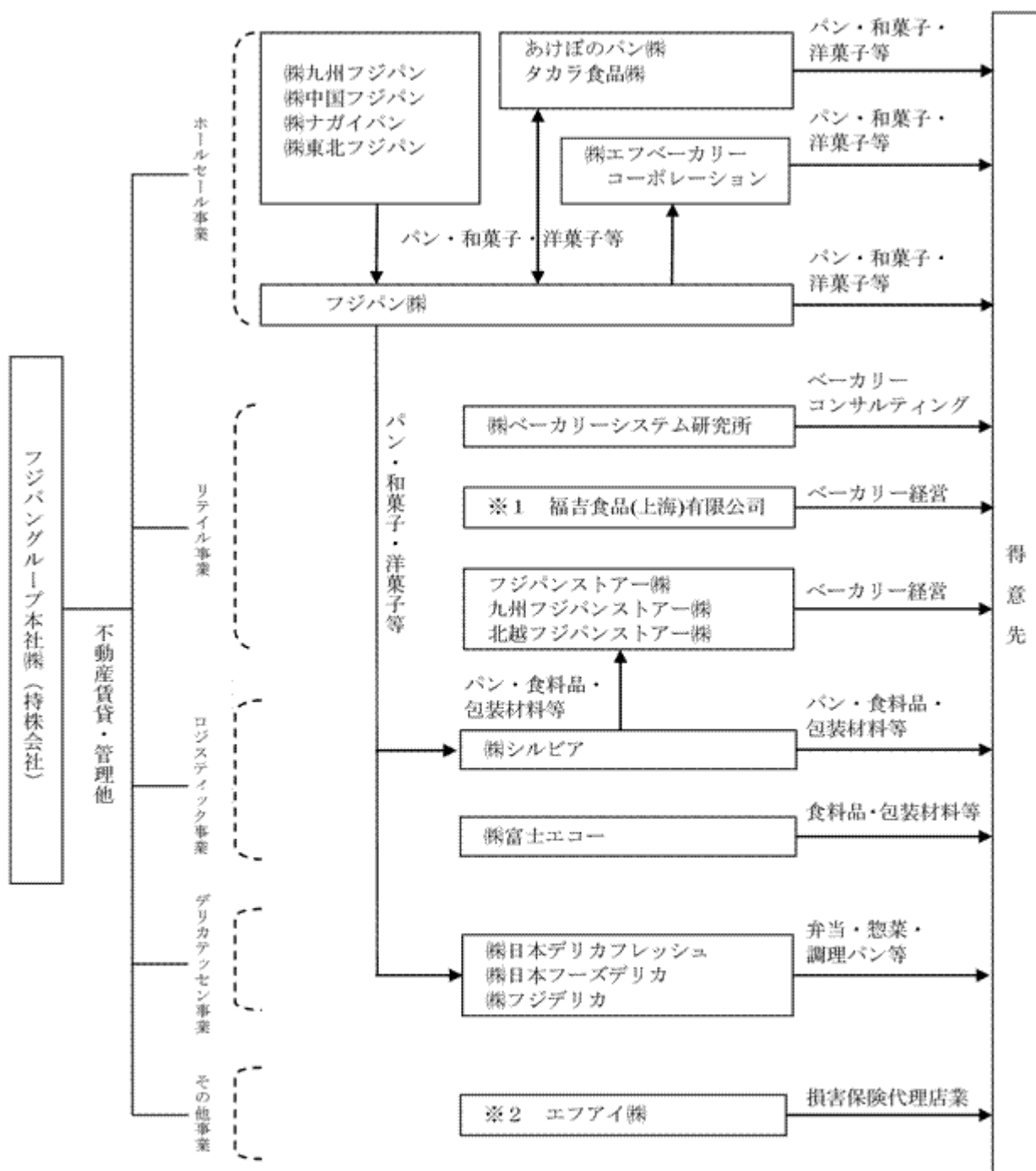
なお、次の4事業区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業区分	会社名	事業内容
全社	フジパングループ本社(株)（当社）	持株会社
ホールセール事業	フジパン(株) あけぼのパン(株) (株)九州フジパン (株)中国フジパン (株)東北フジパン タカラ食品(株) (株)ナガイパン (株)エフベーカリーコーポレーション	パン、菓子類等の製造販売事業
リテイル事業	フジパンストアー(株) 九州フジパンストアー(株) 北越フジパンストアー(株) (株)ベーカリーシステム研究所 福吉食品（上海）有限公司	パン、菓子専門店の経営及びこれらに関するコンサルティング事業
ロジスティック事業	(株)富士エコー (株)シルビア	パン他食料品及び包装材料等の物流事業
デリカテッセン事業	(株)日本デリカフフレッシュ (株)日本フーズデリカ (株)フジデリカ	弁当、惣菜、調理パン等の製造販売事業
その他	エフアイ(株)	損害保険代理店事業

（注）平成24年7月30日付で(株)シルビアを設立しております。

〔事業系統図〕

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社
 ※1 非連結子会社で持分法非適用会社
 ※2 関連会社で持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) フジパン(株) (注) 3. 4	名古屋市 瑞穂区	400	ホールセール事業	100.0	運転資金についての貸付を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
あけぼのパン(株)	東京都 小平市	300	ホールセール事業	100.0	債務保証を行っている。 役員の兼任あり。
(株)九州フジパン	福岡県 糟屋郡 新宮町	392	ホールセール事業	100.0	債務保証を行っている。 建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
(株)中国フジパン	岡山県 倉敷市	54	ホールセール事業	100.0	債務保証を行っている。 役員の兼任あり。
(株)東北フジパン (注) 5	宮城県 岩沼市	50	ホールセール事業	100.0	運転資金についての貸付を行っている。 債務保証を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
タカラ食品(株)	愛知県 稲沢市	56	ホールセール事業	99.9 (12.0)	債務保証を行っている。 役員の兼任あり。
(株)ナガイパン	広島市 南区	45	ホールセール事業	94.6	債務保証を行っている。 役員の兼任あり。
(株)エフベーカー コーポレーション (注) 3	大阪市 西淀川区	300	ホールセール事業	100.0	債務保証を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
フジパンストア (株)	名古屋市 瑞穂区	80	リテイル事業	100.0	土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
九州フジパンストア(株)	名古屋市 瑞穂区	60	リテイル事業	100.0 (96.1)	運転資金についての貸付を行っている。 役員の兼任あり。
北越フジパンストア(株)	名古屋市 瑞穂区	65	リテイル事業	100.0	運転資金についての貸付を行っている。 役員の兼任あり。
(株)ベーカーリース テム研究所	東京都 千代田区	30	リテイル事業	100.0	建物を賃貸している。 役員の兼任あり。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) (株)富士エコー (注) 3. 4	千葉県 市川市	50	ロジスティック事業	100.0	債務保証を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
(株)シルビア	愛知県 丹羽郡 大口町	50	ロジスティック事業	100.0	役員の兼任あり。
(株)日本デリカフ レッシュ	名古屋市 瑞穂区	32	デリカテッセン事業	100.0	債務保証を行っている。 連帯債務を負っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
(株)日本フーズデリ カ	名古屋市 瑞穂区	55	デリカテッセン事業	100.0	運転資金についての貸付を行ってい る。 債務保証を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。
(株)フジデリカ	名古屋市 瑞穂区	33	デリカテッセン事業	100.0	債務保証を行っている。 土地、建物を賃貸している。 役員の兼任あり。

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
 3. 特定子会社に該当しております。
 4. (株)富士エコー及びフジパン(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に
 占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(株)富士エコー	(1) 売上高	97,015百万円
	(2) 経常利益	1,456百万円
	(3) 当期純利益	844百万円
	(4) 純資産額	10,761百万円
	(5) 総資産額	14,553百万円

フジパン(株)	(1) 売上高	117,539百万円
	(2) 経常利益	2,191百万円
	(3) 当期純利益	1,323百万円
	(4) 純資産額	8,723百万円
	(5) 総資産額	31,856百万円

5. 債務超過会社で債務超過の額は、平成25年6月末時点で3,499百万円となっております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年6月30日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
ホールセール事業	3,615 (2,726)
リテイル事業	1,111 (4,254)
ロジスティック事業	320 (213)
デリカテッセン事業	610 (3,512)
全社（共通）	203 (6)
合計	5,859 (10,711)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であります。
 2. 従業員数欄の（ ）は臨時従業員の年間平均雇用人員で、外数であります。
 3. 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成25年6月30日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
107 (2)	35歳1カ月	9年3カ月	5,420

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であります。
 2. 従業員数欄の（ ）は臨時従業員の年間平均雇用人員で、外数であります。
 3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 4. 提出会社の従業員は、すべて特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は提出会社の他、連結子会社のうち(株)九州フジパン、タカラ食品(株)、あけぼのパン(株)、(株)ナガイパン、(株)中国フジパン、(株)シルビア、九州フジパンストア(株)、北越フジパンストア(株)、(株)日本デリカフレッシュ、(株)日本フーズデリカ、(株)フジデリカに各々の労働組合があります。提出会社はフジパングループ労働組合と称し、上部団体の日本食品関連産業労働組合総連合会に加盟しております。

なお、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新政権のアベノミクスによる経済政策や金融政策への期待と効果から、円安及び株価上昇の動きが見られ、景気回復への明るい兆しが見えはじめました。

しかし一方では、新興国経済鈍化など、先行き不透明な状態が続きました。

当業界におきましては、前連結会計年度に続きデフレ状況が続く市場環境の下、長引く不況と消費者の節約志向による商品の低価格化がさらに強まり、流通商品のPB化も加速して販売競争が激化し、厳しい状況となりました。

また、平成25年4月に輸入小麦の政府売渡価格が9.7%引き上げられたことを受けて、6月に製粉価格が値上げされ、さらに食用油脂等原材料についても値上げが実施され、厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは商品の品質向上と価値ある商品開発に取り組み、商品力重視の営業戦略により売上拡大に努めております。

また、商品の安全確保のため、原材料メーカーへの定期監査・新規取引原材料メーカーの審査を実施し、安全な原材料仕入に努めております。さらには、微生物に関する安全確保の手段として、商品・原料・生産設備・環境の細菌検査により管理しております。そして、フジパン適正製造規範(GMP)を基本軸に置き、AIB (American Institute of Baking) 国際検査統合基準や、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000を継続的に取り入れると同時に、食の安全へのニーズに応える新しい食品安全システム規格であるFSSC22000の審査を受け、東京工場、神戸工場、横浜工場については既に認証されるなど、お客様からの信頼をいただけるよう取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は318,175百万円（前連結会計年度比23.0%減）、営業利益は7,353百万円（前連結会計年度比8.7%減）、経常利益は7,464百万円（前連結会計年度比8.2%減）、当期純利益は2,499百万円（前連結会計年度比33.8%減）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

・ホールセール事業

ホールセール事業におきましては、主幹商品である「本仕込食パン」「ネオバターロール」シリーズが堅調に推移し、引き続き売上の基盤をつくりました。特に「本仕込食パン」は今年で発売開始以来20周年を迎え、レシピ本『絶品トーストレシピ』の発行もあり、豊富なメニュー提案でお客様層がさらに広がりました。また、「本仕込食パン」誕生と成長の歴史を、冊子『本仕込ヒストリア』にまとめ、社内の次世代を担う若い人たちに「本仕込食パン」の歩みを伝え、一層の広告・宣伝活動にも力を注ぎました。

また、3月からは「改善55チャレンジ」の中核の取り組みでもある「デイリーセレクション」シリーズを新しく発売し、原材料が高騰する中であっても、品質を重視した商品開発でお取引先様やお客様から多くのご支持をいただいております。シリーズの中では「ソフトフランスツイスト練乳ホイップ」、「ジャージーホイップクロワッサン」、「たまごクロワッサン」などのヒット商品が生まれ、売上に寄与しました。

さらに、6月からは当社の開発商品である「スナックサンド」を今一度見直し、サンドするフィリングや具材が活きるよう食パンをしっとりとした食感に改良し、原点に戻った大判スタイルでスタートしました。市場では高い評価をいただき、今後の育成商品として力を入れてまいります。菓子パンでは、「ぶどうぱん」が発売10周年を迎え、お客様の拡大と売り場における位置付けを確固たるものにしております。

この結果、ホールセール事業の売上高は139,029百万円（前連結会計年度比1.2%減）、営業利益は8,873百万円（前連結会計年度比2.3%増）となりました。

・リテイル事業

リテイル事業におきましては、売上高を確保すべく主力商品を中心に売り場を展開し、既存店の業績回復を推進し、売上規模の拡大に取り組んでまいりました。しかし、雇用・所得の先行き不透明感や、長引くデフレにより企業間競争は大変厳しい状況にあり、苦戦を強いられた結果、当初の目標を大幅に下回る結果となりました。

この結果、リテイル事業の売上高は35,136百万円（前連結会計年度比6.3%減）、営業損失は445百万円（前連結会計年度は営業利益255百万円）となりました。

・ロジスティック事業

ロジスティック事業におきましては、「品質保証」、「安定供給」、「サービスの向上」、「ローコスト/ベストバリュー」を戦略目標として品質保証体制の強化や生産性を向上させ、社内での「活性化委員会」の活動等を通じた改善を継続的に行いました。さらに今まで培った物流ノウハウを活かし、新規取引先の開拓を行い、事業拡大の取り組みをしました。しかし、主力取引先の業務委託契約の変更にともない、売上と仕入を相殺する処理をしたため、大きく売上を減少させることになりました。

この結果、ロジスティック事業の売上高は96,417百万円（前連結会計年度比48.5%減）、営業利益は1,454百万円（前連結会計年度比1.4%増）となりました。

・デリカテッセン事業

デリカテッセン事業におきましては、主要取引先であるコンビニエンスストア業界内の競争激化に加え、既存店の対前年売上高が厳しく、売上高は前年割れの状況となっております。そのような中で、(株)日本デリカフフレッシュは大手流通企業等との取引拡大を図り、(株)日本フーズデリカも飲食店や宅配弁当等、新規販路拡大を進め、(株)フジデリカも取引先の新店増加があり、売上の落ち込みはわずかに留めることができました。

この結果、デリカテッセン事業の売上高は47,591百万円（前連結会計年度比1.0%減）、営業利益は298百万円（前連結会計年度比28.4%減）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6,241百万円増加し、当連結会計年度末には33,333百万円となりました。

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、ロジスティック事業において主力取引先との契約内容の変更による売掛金及び在庫の減少、リテイル事業における減損損失の大幅な増加、前連結会計年度にはあった東日本大震災による災害損失の支払額が当連結会計年度にはなかったことなどにより、前連結会計年度に比べ1,849百万円増加し、15,304百万円の収入となりました。

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度にはあった(株)東北フジパン工場新設による有形無形固定資産の取得による支出が当連結会計年度にはなかったことなどにより、前連結会計年度に比べ3,205百万円支出が減少し、9,141百万円の支出となりました。

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度の2,320百万円の支出に対し、設備投資資金である長期借入金の増加などにより、79百万円の収入となりました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)	前年同期比 (%)
ホールセール事業 (百万円)	161,475	100.6
ロジスティック事業 (百万円)	1,168	127.4
デリカテッセン事業 (百万円)	47,955	99.2
合計 (百万円)	210,599	100.4

- (注) 1. 販売基準価格 (販売に対する卸価格) をもって表示しております。
 2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループの製品は特に鮮度が重要視されますので、販売店からの日々の注文により生産しておりますが、納入時間の関係上受注締切以前見込数で生産を開始し、最終的に生産数量の調整を行う受注方式であり、翌日繰越受注残はありません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)	前年同期比 (%)
ホールセール事業 (百万円)	139,029	98.8
リテイル事業 (百万円)	35,136	93.7
ロジスティック事業 (百万円)	96,417	51.5
デリカテッセン事業 (百万円)	47,591	99.0
合計 (百万円)	318,175	77.0

- (注) 1. 販売価格で表示しております。
 2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)		当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
日本マクドナルド株式会社	74,044	17.9	32,017	10.1
AQロジスティクス株式会社	8,294	2.0	36,101	11.3

3. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

今後のわが国の経済につきましては、引き続き新政権への期待感があるものの、円安の影響による原材料・燃料価格の高騰等、先行き不透明な要因が予想されます。

このような中、当社グループでは、100年企業に向けて、お客様に信頼される安全で安心な「絶対的な商品力」を礎として、「改善55チャレンジ」を小集団活動等を通じてグループ一丸となって推進してまいります。

このフジパングループ従業員の意識改革である「改善55チャレンジ」の下、従業員が垣根意識を乗り越えて、コミュニケーションを密にし、全体最適を目指して、再生産に見合う適正利潤の確保に向けて挑戦してまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、将来に関する事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 製品の安全性について

当社グループは、商品の安全安心に対する取り組みを最重点課題として取り組んでおります。

当社グループは、商品の安全性確保と今後発生が予見されるリスクへの予防処置を講ずる目的から、品質衛生部・食品衛生部を設置し、その下部組織として品質保証部・食品安全審査委員会・衛生検査部を設けております。また、事業会社であるフジパン(株)には品質管理部及び研究室を設け、日々の安全衛生管理の万全を期しております。食中毒防止等の微生物に関する安全性確保については、研究室指導の下、各工場において日々の細菌検査により生産設備・環境の管理を実施しております。

また、工場の5Sを中心とした衛生管理については、フジパン適正製造規範(GMP)を基本軸に置き、AIB国際検査統合基準・ISO22000・FSSC22000を取り入れ、監査・審査を継続実施しております。

アレルゲン管理につきましては、品質管理部が工場のアレルゲン管理を行い、研究室では、アレルギー物質の検査を実施しております。

また、表示課で原材料表示管理システムを運用し、安全で分かりやすい原材料表示を作成・管理しております。

しかしながら、当社グループの想定を超えた事態が発生した場合、経営環境に大きな影響を与える可能性があります。

(2) 原材料の調達や価格高騰

当社グループで取り扱っている商品の主な原材料は、小麦、砂糖、油脂等農産物及びその加工品であり、米、卵、レーズン等の農産物も原料として使用しております。

当社グループでは、調達先を複数化するなどして安定的な原材料の調達や価格維持に努めております。しかし、最近では米国での熱波や干ばつなど世界各地で天候異変が広がり、収穫量の減少や新興国等の消費量の増加により、農産物の国際価格が相次いで上昇しております。突発的事情により調達が不安定となり、仕入れ価格が高騰を招いた場合、経営環境に悪影響を与える可能性があります。

(3) コンピューターシステムの大規模障害について

当社グループは、お客様である流通企業からのオンライン注文を普及しつつある流通BMSを含めて対応できる最新システムを東西2ヶ所に設置し、かつそれぞれが完全互換するよう運用体制を整えております。

システム上の安全対策については、自家発電装置や免震装置の設置、各種機器の冗長化等を施し、各センター間のリアルタイムバックアップも実施しております。

また、通信ネットワークについても各事業所までの通信回線を主回線とは異なるキャリアの回線を副回線とするなどネットワークを二重化し、安全性を一層高めるよう努力しております。

しかしながら、大規模災害などにより当社グループの想定を超えた広範囲かつ長時間に渡るネットワーク障害等が発生した場合、生産、配送活動に支障をきたし、経営に重大な悪影響を与える可能性があります。

(4) 債務保証

当社グループは、連結子会社以外の会社である(株)ロバパンに2,340百万円の債務保証をしております。

この会社の営業成績の動向により、当社グループの財務内容に影響を与える可能性があります。

(5) 取引先の経営破綻

当社グループの主な販売先であるスーパーマーケット、コンビニエンスストア、外食産業等につきましては、合併、グループ化等で企業毎の取引が拡大方向にありますが、取引金額が多額であるため、予期せぬ経営破綻や取引に大きな変化が発生した場合には、業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 特定取引先への依存

デリカテッセン事業においては、売上高の大部分をコンビニエンスストア業界に依存しております。従いまして、コンビニエンスストア会社との取引が大きく変動した場合などには経営成績に影響を与える可能性があります。また、ロジスティック事業、リテイル事業においても、大きな売上ウェイトを占める企業の動向によっては、経営に大きな影響を与える可能性があります。

(7) 自然災害

当社グループは、生産拠点として全国各地に多数の工場を有しておりますが、地震や台風等の自然災害が発生し、重大な被害を受けた工場が操業停止となった場合、他工場から緊急の製品供給体制をとり対応致します。しかし、首都圏等当社グループの工場が集中している地域で大規模災害が発生し、複数の工場が被災するなど、当社グループの危機管理対策の想定範囲を超えた天変地異の場合には、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 退職給付費用及び債務

当社グループでは、退職給付費用及び債務を割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率に基づいて算定しておりますが、前提条件が変更され数理計算差異が発生した場合や企業年金基金等の運用成績が著しく悪化した場合には、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

㈱富士エコーが行っていた日本マクドナルド㈱の商品の売買及び在庫・保管・輸送管理業務について、平成24年9月より、AQロジスティクス㈱に移管され、また㈱富士エコーとAQロジスティクス㈱の間で業務委託契約を締結し、㈱富士エコーが当該業務をAQロジスティクス㈱から受託すると同時に、日本マクドナルド㈱等からの代金回収についてはAQロジスティクス㈱が行う取引へ変更となっております。

㈱富士エコーとAQロジスティクス㈱の間で締結した重要な契約の内容は次のとおりであります。

契約会社名	相手方の名称	契約締結日	契約内容	契約期間
㈱富士エコー (連結子会社)	AQロジスティクス㈱	平成24年 8月31日	AQロジスティクス㈱が日本マクドナルド㈱から委託されている商品の購買、在庫・保管・輸送管理等の業務を㈱富士エコーが再委託を受け、その対価として受託料の支払を受けます。	平成24年8月31日から 平成25年12月31日まで 以後1年ごとの自動更新

なお、会計数値に与える影響は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (追加情報)」に記載しております。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、連結子会社であるフジパン㈱（ホールセール事業）が行っております。当社グループの研究開発活動は、安全で安心な商品、消費者の嗜好に合った商品づくりを目指し、基礎研究、品質の安定向上に取り組むと共に、消費者の多様化した要望に応えるため、新製品の開発に特に力を入れて取り組んでおります。

現在の主な取り組みは次のとおりであります。

1. 市場性を重視し、自由な発想での商品開発。
2. コストを抑えるための新しい原料・製法の研究。
3. 製品の安全性の確保（細菌検査の充実、各工場の細菌検査室と連携し、検査体制の強化）。
4. 主要原料（小麦粉、フィリング、イースト等）の品質基準の検査（各種分析、細菌検査等）。
5. 主要製品（食パン、食卓パン、菓子パン等）の品質検査及び品質の改善と向上。
6. 工場の巡回による生産ラインの衛生状態の改善指導と製品品質の改良と管理水準の向上。
7. 新規使用原料の事前審査及び、新規取引先の生産部門への事前査察による原料の安全性の確認。

これらの項目について継続して取り組みを実施し、企業の発展に寄与する研究開発を充実してまいります。

また、当連結会計年度における研究開発費の総額は73百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。具体的には、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。

なお、将来に関する事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、69,862百万円（前連結会計年度末は82,674百万円）となり、12,811百万円減少しました。これはロジスティック事業において主力取引先との取引内容の変更により、平成24年9月以降の売上及び仕入を相殺する処理としたことから、売掛金が減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、96,274百万円（前連結会計年度末は92,929百万円）となり、3,345百万円増加しました。これは㈱エフベーカーコーポレーション滋賀事業所新設により固定資産が増加したこと、株式相場の上昇に伴い投資有価証券が増加したことなどが主な要因となっております。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、66,596百万円（前連結会計年度末は82,629百万円）となり、16,032百万円減少しました。これはロジスティック事業における取引内容の変更により、買掛金が減少したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は、24,241百万円（前連結会計年度末は21,327百万円）となり、2,914百万円増加しました。これは設備投資資金である長期借入金が増加したことが主な要因となっております。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、75,298百万円（前連結会計年度末は71,647百万円）となり、3,651百万円増加しました。これは利益剰余金の増加に加え、株式相場の上昇によりその他有価証券評価差額金が増加したことが主な要因となっております。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載しておりますが、その主な要因は次のとおりであります。

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に比べロジスティック事業では大きく売上高が減少しましたが、これは主力取引先との取引内容の変更により、平成24年9月以降の売上及び仕入を相殺する処理としたことによるもので、売上総利益以降の損益に与える影響はありません。その他の事業セグメントにおいても総じて売上は伸び悩み、前連結会計年度に比較し95,297百万円減少し318,175百万円となりました。

売上高の減少に加え原材料価格の上昇などにより利益を圧迫したことから、売上総利益は前連結会計年度の88,018百万円と比較して、5,836百万円減少し、82,182百万円となりました。

運搬費、賃借料の減少などから販売費及び一般管理費は減少したものの、営業利益は前連結会計年度の8,050百万円と比較して、696百万円減少し、7,353百万円となりました。

リテール事業において減損損失が大きく計上されたことなどにより、当期純利益は前連結会計年度の3,775百万円と比較して、1,276百万円減少し、2,499百万円となりました。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループといたしましては、持株会社体制のもと、ホールセール事業、リテイル事業、ロジスティック事業、デリカテッセン事業を4つの柱とし、各部門の充実に拠るしっかりとした経営基盤の構築を目指して取り組んでおります。

それぞれの事業がそれぞれの分野で生き残るために、「食を通して社会に貢献する」という基本姿勢のもと、お客様に安全・安心で喜ばれる商品を提供しつづける会社を目指し、お客様の更なる支持と信頼を獲得することが最重要課題と考えております。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、前連結会計年度に比べ営業活動によるキャッシュ・フローでは1,849百万円収入が増加、投資活動によるキャッシュ・フローでは3,205百万円支出が減少、財務活動によるキャッシュ・フローでは前連結会計年度の2,320百万円の支出に対し79百万円の収入となり、現金及び現金同等物は、当連結会計年度は6,241百万円増加し、33,333百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、ホールセール事業を中心に品質や衛生環境の改善、生産効率の向上、新商品の開発等を目的に設備投資を行いました。当連結会計年度中の設備投資の総額は12,440百万円であります。

ホールセール事業におきましては、10,671百万円の設備投資を実施しました。その主なものはフジパン(株)の豊明工場マフィンライン新設、枚方工場菓子パンBライン改修、出荷棟増築、武蔵工場菓子パン加工場メロンパン生産設備導入、(株)エフベーカーコーポレーション滋賀事業所新設であります。

リテイル事業におきましては355百万円、ロジスティック事業におきましては616百万円、デリカテッセン事業におきましては722百万円の設備投資をそれぞれ実施しました。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年6月30日現在

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物及び構築物 (百万円)	機械装置及び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
フジパングループ 本社(株) (名古屋市瑞穂区)	全社(共通)	統括業務施設	149	6	573 (29,711)	92	54	876	107 [2]
	ホールセール事業	連結子会社への賃貸設備等	9,712	0	8,890 (360,004)	70	197	18,871	—
	リテイル事業	連結子会社への賃貸設備等	14	—	203 (405)	—	0	217	—
	ロジスティック事業	連結子会社への賃貸設備等	45	—	2,671 (26,756)	47	0	2,764	—
	デリカテッセン事業	連結子会社への賃貸設備等	1,259	0	1,715 (36,554)	—	2	2,978	—

- (注) 1. 帳簿価額のうち「リース資産」は、無形固定資産を含んでおりません。
2. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品、及び建設仮勘定であります。
3. 従業員数の[]は、臨時従業員数を外書しております。

(2) 国内子会社

平成25年6月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
フジパン(株)	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	4,209	9,672	—	11	59	13,952	2,035 [1,172]
あけぼのパン (株)	本社 (東京都小 平市)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	331	258	4,010 (19,817)	0	12	4,614	160 [324]
(株)九州フジパ ン	本社他 (福岡県糟 屋郡新宮 町)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	1,787	1,765	3,456 (93,418)	—	11	7,020	363 [343]
(株)中国フジパ ン	本社他 (岡山県倉 敷市)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	1,120	903	2,125 (69,712)	—	7	4,157	229 [178]
(株)東北フジパ ン	本社 (宮城県岩 沼市)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	427	2,611	—	—	13	3,053	177 [47]
タカラ食品(株)	本社他 (愛知県稲 沢市)	ホールセー ル事業	パン菓子類 等生産設備	347	164	455 (106,633)	—	17	985	217 [201]
(株)ナガイパン	本社 (広島市東 区)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	30	90	338 (2,027)	—	3	463	126 [94]
(株)エフベーカ リーコーポ レーション	本社他 (大阪市西 淀川区)	ホールセー ル事業	パン菓子類 生産設備	2,731	3,454	834 (16,478)	181	463	7,665	404 [371]
フジパンスト アール(株)	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	リテイル事 業	パン菓子類 販売設備	762	334	0 (5,534)	5	76	1,180	815 [3,146]
九州フジパン ストアール(株)	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	リテイル事 業	パン菓子類 販売設備	136	65	—	—	16	218	172 [869]
北越フジパン ストアール(株)	本社 (名古屋市 瑞穂区)	リテイル事 業	パン菓子類 販売設備	47	19	—	—	5	72	65 [238]
(株)ベーカリー システム研究 所	本社他 (東京都千 代田区)	リテイル事 業	パン菓子類 研究設備	95	0	410 (127)	0	4	513	59 [1]
(株)富士エコー	本社他 (千葉県市 川市)	ロジス ティック事 業	配送セン ター他	1,370	273	3,536 (16,088)	0	115	5,295	259 [177]
(株)シルビア	本社他 (愛知県丹 羽郡大口 町)	ロジス ティック事 業	菓子類生産 設備 配送セン ター	34	43	—	—	2	80	61 [36]
(株)日本デリカ フレッシュ	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	デリカテッ セン事業	弁当惣菜製 造設備	785	590	1,295 (13,886)	6	8	2,686	193 [1,139]
(株)日本フーズ デリカ	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	デリカテッ セン事業	弁当惣菜製 造設備	844	442	655 (7,713)	11	5	1,958	253 [1,488]
(株)フジデリカ	本社他 (名古屋市 瑞穂区)	デリカテッ セン事業	弁当惣菜製 造設備	506	458	74 (2,247)	4	13	1,057	164 [885]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品、及び建設仮勘定であります。

2. 従業員数の[]は、臨時従業員数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 当連結会計年度において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設について、完了したものは以下のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	金額 (百万円)	完成年月
フジパングループ本社(株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール事業	(株)エフベーカーコーポレーション滋賀事業所 賃貸用土地・建物	2,324	平成25年6月
フジパングループ本社(株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール事業	フジパン(株)西春工場 賃貸用建物	313	平成24年8月
(株)エフベーカーコーポレーション 滋賀事業所	滋賀県 犬上郡 多賀町	ホール セール事業	パン製造設備	2,238	平成25年6月

(注) 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

(2) 重要な設備の新設

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の新設計画は以下のとおりです。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定 年月		完成後 の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
フジパングループ本社(株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール 事業	(株)中国フジパン 賃貸用建物	2,120	—	借入金	平成25年 6月	平成26年 6月	—
(株)エフベーカーコーポレーション 名古屋事業所	愛知県 春日井市	ホール セール 事業	冷凍生地製造設備	2,225	433	借入金	平成25年 2月	平成25年 11月	310百万円/年の生産を見込んでおります。
フジパン(株) 千葉工場	千葉県 市川市	ホール セール 事業	パン製造設備	954	—	借入金	平成25年 4月	平成25年 9月	80百万円/月の生産を見込んでおります。
フジパン(株) 枚方工場	大阪府 枚方市	ホール セール 事業	パン製造設備	713	—	借入金	平成25年 6月	平成25年 10月	140百万円/月の生産を見込んでおります。

(注) 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

(3) 重要な設備の拡充

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の拡充計画は以下のとおりです。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定 年月		完成後 の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
フジパングループ本社 (株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール 事業	フジパン(株) 枚方工場 賃貸用建物	678	—	借入金	平成25年 6月	平成25年 10月	—
フジパングループ本社 (株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール 事業	フジパン(株) 神戸工場 賃貸用建物	547	152	借入金	平成25年 6月	平成26年 2月	—

(注) 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

(4) 重要な設備の改修

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の改修計画は以下のとおりです。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定 年月		完成後 の増加 能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
フジパングループ本社 (株)	名古屋市 瑞穂区	ホール セール 事業	(株)エフベ ー カー リー コー ポ レー シ ョ ン 名 古 屋 事 業 所 賃 貸 用 建 物	1,093	—	借入金	平成25年 2月	平成25年 11月	—

(注) 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 （株） （平成25年6月30日）	提出日現在発行数（株） （平成25年9月27日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	30,540,400	30,540,400	該当事項はありません。	単元株式数 1,000株
計	30,540,400	30,540,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増 減額 （百万円）	資本準備金残 高（百万円）
平成2年7月1日 （注）	2,776,400	30,540,400	1,180	4,682	1,180	4,769

(注) 有償増資
株主割当 1 : 0.1 2,776,095株
発行価格 850円
資本組入額 425円
失権・端株再募集分 305株
発行価格 1,578円
資本組入額 789円

(6) 【所有者別状況】

平成25年6月30日現在

区分	株式の状況（１単元の株式数1,000株）								単元未満株式の状況 （株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	－	10	1	32	－	－	65	108	－
所有株式数 （単元）	－	4,750	57	8,022	－	－	17,675	30,504	36,400
所有株式数の割合（％）	－	15.5	0.1	26.2	－	－	57.9	100.0	－

（注） 自己株式10,998,584株は、「個人その他」に10,998単元及び「単元未満株式の状況」に584株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 （千株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
富士ビル(株)	愛知県名古屋市瑞穂区弥富通一丁目21番地	2,347	7.6
舟橋宣子	愛知県名古屋市昭和区	2,238	7.3
日清製粉(株)	東京都千代田区神田錦町一丁目25番地	1,405	4.6
(株)十六銀行	岐阜県岐阜市神田町八丁目26番地	966	3.1
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	965	3.1
古澤房子	千葉県浦安市	777	2.5
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	662	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	661	2.1
舟橋りつ子	愛知県名古屋市昭和区	659	2.1
(株)カーギルジャパン	東京都千代田区丸の内三丁目1番1号	638	2.0
計	—	11,321	37.0

（注） 1. 当社は自己株式10,998千株（発行済株式総数に対する所有株式数の割合36.0%）を所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式数は、すべて信託業務にかかる株式数であります。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 10,998,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 19,506,000	19,506	—
単元未満株式	普通株式 36,400	—	—
発行済株式総数	30,540,400	—	—
総株主の議決権	—	19,506	—

② 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
フジパングループ本社(株)	名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地	10,998,000	—	10,998,000	36.0
計	—	10,998,000	—	10,998,000	36.0

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	10,998,584	—	10,998,584	—

3 【配当政策】

当社は、創業以来一貫して、株主への利益還元を重要な課題の一つと考えて事業の経営にあたっており、配当については1株当たり10円を安定配当としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針とし、配当の決定機関は株主総会であります。

当期におきましても、業績等を勘案致しまして、1株当たり10円の配当を実施することに決定しました。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年9月26日 定時株主総会決議	195	10

4 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役会長兼 社長 (代表取締 役)		安田 智彦	昭和19年1月25日生	昭和41年4月 ㈱十六銀行入行 昭和53年1月 当社入社 昭和59年9月 当社取締役就任 平成2年9月 当社常務取締役就任 平成10年9月 当社取締役副社長就任 平成12年9月 当社代表取締役社長就任 平成21年9月 当社代表取締役会長就任 平成23年9月 フジパン㈱代表取締役会長兼社長 就任(現任)	(注)2	36
取締役副社長 (代表取締 役)		野田 和男	昭和22年12月7日生	昭和45年4月 ㈱十六銀行入行 平成12年9月 当社入社 平成12年9月 当社取締役経営管理部長就任 平成13年6月 当社取締役経理部長兼経営管理部 長就任 平成18年7月 当社常務取締役経営管理部長兼経 理部長就任 平成22年9月 当社専務取締役経営管理部長兼経 理部長就任 平成23年9月 当社代表取締役副社長就任(現 任)	(注)2	8
取締役副社長		林 信和	昭和28年9月16日生	昭和51年4月 当社入社 平成17年9月 当社取締役営業部長就任 平成21年1月 フジパン㈱代表取締役就任 平成21年9月 当社専務取締役就任 平成22年9月 当社代表取締役専務就任 平成24年9月 当社取締役副社長就任(現任)	(注)2	5
専務取締役		杉村 和則	昭和26年7月1日生	昭和50年3月 当社入社 平成14年9月 当社取締役九州事業部長就任 平成18年7月 当社取締役就任 平成22年4月 ㈱東北フジパン代表取締役就任 平成24年9月 フジパン㈱代表取締役就任(現 任) 平成24年9月 当社専務取締役就任(現任)	(注)2	5
常務取締役	総務部長	橋本 禎力	昭和29年4月18日生	昭和52年4月 当社入社 平成13年9月 当社東京工場長就任 平成24年9月 当社常務取締役総務部長就任(現 任)	(注)2	3
取締役		佐々木 明彦	昭和30年11月10日生	昭和54年4月 当社入社 平成17年4月 当社東京工場長就任 平成22年9月 当社取締役生産部長就任(現任)	(注)2	5
取締役	品質衛生部長	村上 賢司	昭和25年11月2日生	昭和48年3月 当社入社 平成12年5月 当社神戸工場長就任 平成24年9月 当社取締役品質保証部長兼衛生検 査部長就任(現任)	(注)2	3
取締役		岡村 徹	昭和27年8月14日生	昭和50年3月 当社入社 平成24年9月 ㈱富士エコー代表取締役就任(現 任) 平成24年9月 当社取締役就任(現任)	(注)2	2
取締役	経理部長	青山 敬明	昭和30年8月26日生	昭和53年4月 当社入社 平成22年1月 当社経理部長就任 平成24年9月 当社取締役経理部長就任(現任)	(注)2	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役	システム部長	都築 鐘弘	昭和32年2月16日生	昭和55年4月 当社入社 平成22年9月 当社システム部長就任 平成24年9月 当社取締役システム部長就任（現任）	(注)2	2
取締役	人事部長	小川 弘道	昭和35年10月17日生	昭和59年4月 当社入社 平成24年1月 当社人事部長就任 平成24年9月 当社取締役人事部長就任（現任）	(注)2	3
常勤監査役		早川 雅雄	昭和25年4月24日生	昭和48年3月 当社入社 平成22年4月 当社経理部副部長就任 平成22年9月 当社監査役就任（現任）	(注)4	0
監査役		吉田 昌弘	昭和31年8月25日生	昭和55年4月 日清製粉㈱入社 平成24年4月 日清製粉㈱名古屋営業部長就任（現任） 平成24年9月 当社監査役就任（現任）	(注)3	—
監査役		丸山 弘昭	昭和21年3月14日生	昭和60年3月 ㈱アタックス代表取締役就任（現任） 平成14年4月 アタックス税理士法人代表社員就任（現任） 平成25年1月 当社監査役就任（現任）	(注)5	—
監査役		葛西 茂男	昭和29年1月5日生	昭和47年4月 オリエンタル酵母工業㈱入社 平成21年6月 オリエンタル酵母工業㈱取締役食品事業本部副本部長就任（現任） 平成25年1月 当社監査役就任（現任）	(注)5	—
計						76

- (注) 1. 吉田昌弘、丸山弘昭、葛西茂男は、社外監査役であります。
2. 平成25年9月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
3. 平成24年9月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成23年9月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成25年1月21日開催の臨時株主総会の終結の時から平成28年6月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営判断の迅速化と健全な企業経営を行うことにより、株主を中心としたステークホルダーを重視した財務内容の信頼性を確保することをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

② 会社機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ 会社の機関の基本説明

取締役会は提出日現在、取締役11名で構成され、原則毎月1回開催されております。

当社は監査役制度を採用しており、提出日現在、監査役4名を選任、内3名が社外監査役であります。

ロ 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は、平成18年5月22日に開催された取締役会において、内部統制システム構築に関する基本方針を以下のとおり決議しております。

A 目的

この基本方針は、当社の業務の適正を確保することにより、当社が事業活動を通じて持続的に社会に貢献することを目的とする。

B 体制の構築及び周知

上記の目的を達成するために、次に掲げる体制を構築する。また、必要な範囲でこれらの体制の周知に努めるものとする。

a 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役は、その職務の執行に係る文書その他の情報につき、当社の文書規程に従い適切に保存及び管理を行う。また、取締役、監査役その他文書規程に定められた者は、文書規程によりこれらの文書を閲覧することができる。

b 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行い、各部門所轄業務に付随するリスク管理は担当部門が行うものとする。

c 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月一回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については、事前に会長・社長・副社長及び役付取締役によって構成される常務会において議論を行い、その審議を経て執行決定を行うものとする。また、取締役会の決定に基づく業務執行については、組織及び業務分掌並びに職務規定において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続の詳細について定める。

d 取締役及び使用人（従業員）の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

代表取締役が繰り返し「企業行動規範・社員行動指針」の精神を取締役及び使用人（従業員）に伝えることにより、法令及び定款遵守をあらゆる企業活動の前提とすることを徹底する。

法令上疑義のある行為について従業員が本来の指揮命令系統とは別に情報提供する窓口を設け、法令上疑義のある行為等の改善を促す手段として、コールセンターを設置する。

e 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、グループ各社の代表取締役を責任者として当社グループにおける連携体制を構築し、当社グループ全体におけるコンプライアンス体制の確保に努める。また、当社グループ会社間における不適切な取引を防止し、健全かつ適正なグループ経営の実現に努める。なお、当社グループとは、当社及び連結子会社並びに非連結子会社等から成る企業グループを指す。

f 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役から請求があった場合、合理的な範囲内で、監査役の職務を補助すべき使用人（従業員）を配置する。

g 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人（従業員）の任命、解任、評価、人事異動、賃金等の改訂については、監査役との事前協議を経た上で決定することとし、取締役からの独立性を確保する。

h 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役は、法令に定める権限を行使し、会計監査人及び当社内部監査部門と連携をとり、取締役の業務執行の適法性・妥当性・効率性についての監査を行う。監査の実効性を確保するため、取締役及び使用人（従業員）は、監査役会の定めるところに従い、監査役に、営業、業績に影響を及ぼす重要な事項について報告しなければならない。

i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役から請求があった場合、合理的な範囲内で、上述した以外の監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制を構築する。

C 検証及び改善

当社は、第A項記載の目的を達成するために、上記の体制が有効に機能しているか否かを定期的に検証し、改善の必要がある場合は速やかに改善し、常に当社にとって最適な体制が維持・構築されるよう努める。

ハ 内部監査及び監査役監査の状況

当社は内部監査部門として監査部（専従者2名）を設置しており、会計処理・業務遂行状況等に関する適正性等について、随時必要な内部監査を実施しております。内部監査の結果につきましては、取締役、監査役にも報告し、関係各部署への指導及び対策について当社を含めグループで連携して対処しております。

監査役監査につきましては、常勤監査役が中心となり、取締役会に出席し、取締役の職務執行を十分に監査できる体制となっております。

また、内部監査、監査役監査及び会計監査は、相互に連携をとりながら、意見の交換及び情報の共有を行い、適正な監査の実施及び問題点の改善状況の確認に努めております。

ニ 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しており、定期的な会計監査のほか、経理業務等の課題について適宜助言を受けております。

当社担当の公認会計士は、指定有限責任社員 業務執行社員 松岡正明、指定有限責任社員 業務執行社員 小川薫であります。また、当事業年度の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士10名、その他8名であります。

ホ 社外取締役及び社外監査役との関係

監査役は4名選任しておりますが、その内3名が社外監査役であります。

社外監査役 吉田昌弘は、日清製粉株式会社の名古屋営業部長を兼務しております。なお、日清製粉株式会社は当社の大株主であり、当社グループの主要な仕入先であります。

社外監査役 丸山弘昭は、株式会社アタックス代表取締役及びアタックス税理士法人の代表社員、トヨタ車体株式会社社外監査役、ブラザー工業株式会社社外監査役を兼務しております。なお、株式会社アタックス及びアタックス税理士法人は当社の税務顧問先であります。トヨタ車体株式会社及びブラザー工業株式会社と当社との間には、特別な利害関係はありません。

社外監査役 葛西茂男は、オリエンタル酵母工業株式会社の取締役食品事業本部副本部長を兼務しております。なお、オリエンタル酵母工業株式会社は当社の株主であり、当社グループの主要な仕入先であります。

なお、上記以外に当社と社外監査役3名との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役は専門的な知見及び高い独立性を有しており、社外からの経営監視という視点からは、社外監査役が十分に機能しておりますので、当社は社外取締役は選任しておりません。

当社は、社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

③ リスク管理体制の整備の状況

当社は火災、自然災害、事件、事故等明らかに会社の経営に重要な影響を与える、又は与える可能性のある異常事態の発生に対し、情報の一元管理と迅速な対応を図るため本社にコールセンターを設け、リスクの未然防止、早期発見、早期解決と再発防止に向けた体制を構築しております。

④ 役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役・監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

区分	支給人員	支給額
取締役	15名	247百万円
監査役 (うち社外監査役)	3名 (2名)	10百万円 (0百万円)
合計	18名	257百万円

⑤ 取締役の定数

当社の取締役は16名以内とする旨定款に定めております。

⑥ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑦ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	16	—	16	—
連結子会社	10	—	10	—
計	26	—	26	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査公認会計士等が当社と協議し作成された監査計画に基づく監査報酬の見積りを、社内関連部署と協議を行ったうえで、監査役会の同意を得て決定することを方針としております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年7月1日から平成25年6月30日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年7月1日から平成25年6月30日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、財務諸表の適正性を確保するため、必要に応じて監査法人との協議を実施し、会計基準等の内容を適切に把握するため、セミナー及び研修会への参加や会計専門書の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】
(1) 【連結財務諸表】
① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 6月30日)	当連結会計年度 (平成25年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,542	35,883
受取手形及び売掛金	※4 42,542	※4 27,239
商品及び製品	7,104	3,306
仕掛品	216	231
原材料及び貯蔵品	1,101	1,335
繰延税金資産	563	386
その他	1,625	1,493
貸倒引当金	△22	△12
流動資産合計	82,674	69,862
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※2 74,207	※2 77,859
減価償却累計額	△48,852	△51,149
建物及び構築物（純額）	※2 25,355	※2 26,710
機械装置及び運搬具	※2 96,559	※2 98,212
減価償却累計額	△74,846	△77,054
機械装置及び運搬具（純額）	※2 21,712	※2 21,157
土地	※2 30,752	※2 31,247
リース資産	852	981
減価償却累計額	△398	△549
リース資産（純額）	453	432
建設仮勘定	835	658
その他	※2 3,717	※2 3,535
減価償却累計額	△3,221	△3,100
その他（純額）	※2 495	※2 435
有形固定資産合計	79,605	80,642
無形固定資産		
のれん	※6 232	—
リース資産	8	5
ソフトウェア	568	917
その他	551	141
無形固定資産合計	1,360	1,064
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 6,852	※1 9,017
繰延税金資産	178	273
その他	※1 4,981	※1 5,302
貸倒引当金	△49	△24
投資その他の資産合計	11,963	14,567
固定資産合計	92,929	96,274

資産合計

175,604	166,137
---------	---------

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 6 月30日)	当連結会計年度 (平成25年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	31,383	15,520
短期借入金	※2, ※5 30,813	※2, ※5 29,175
リース債務	204	185
未払費用	14,081	13,378
未払法人税等	2,321	1,521
賞与引当金	98	80
役員賞与引当金	27	39
資産除去債務	21	37
その他	3,676	6,658
流動負債合計	82,629	66,596
固定負債		
長期借入金	※2 17,822	※2 19,972
リース債務	293	336
繰延税金負債	1,668	2,475
退職給付引当金	168	166
役員退職慰労引当金	575	480
資産除去債務	629	629
その他	169	※6 181
固定負債合計	21,327	24,241
負債合計	103,956	90,838
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,682	4,682
資本剰余金	7,277	7,277
利益剰余金	69,690	71,974
自己株式	△10,991	△10,991
株主資本合計	70,659	72,943
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	970	2,343
その他の包括利益累計額合計	970	2,343
少数株主持分	18	12
純資産合計	71,647	75,298
負債純資産合計	175,604	166,137

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	413,472	318,175
売上原価	325,453	235,992
売上総利益	88,018	82,182
販売費及び一般管理費	※1, ※2 79,967	※1, ※2 74,828
営業利益	8,050	7,353
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	158	165
不動産賃貸料	224	201
負ののれん償却額	206	127
雑収入	547	613
営業外収益合計	1,144	1,113
営業外費用		
支払利息	613	540
固定資産除売却損	317	335
雑損失	131	126
営業外費用合計	1,062	1,003
経常利益	8,132	7,464
特別利益		
固定資産売却益	※3 49	※3 26
投資有価証券売却益	125	—
受取保険金	267	—
収用補償金	—	101
補助金収入	—	187
その他	61	1
特別利益合計	504	316
特別損失		
減損損失	※4 182	※4 1,830
投資有価証券評価損	30	8
災害による損失	※5 43	—
その他	24	46
特別損失合計	281	1,885
税金等調整前当期純利益	8,355	5,895
法人税、住民税及び事業税	3,728	3,261
法人税等調整額	847	140
法人税等合計	4,575	3,402
少数株主損益調整前当期純利益	3,780	2,492
少数株主利益又は少数株主損失(△)	4	△6
当期純利益	3,775	2,499

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	3,780	2,492
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	323	1,373
その他の包括利益合計	※ 323	※ 1,373
包括利益	4,103	3,866
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,098	3,872
少数株主に係る包括利益	4	△6

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	4,682	4,682
当期末残高	4,682	4,682
資本剰余金		
当期首残高	7,277	7,277
当期末残高	7,277	7,277
利益剰余金		
当期首残高	66,110	69,690
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	3,775	2,499
当期変動額合計	3,580	2,284
当期末残高	69,690	71,974
自己株式		
当期首残高	△10,990	△10,991
当期変動額		
自己株式の取得	△0	—
当期変動額合計	△0	—
当期末残高	△10,991	△10,991
株主資本合計		
当期首残高	67,079	70,659
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	3,775	2,499
自己株式の取得	△0	—
当期変動額合計	3,579	2,284
当期末残高	70,659	72,943
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	646	970
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	323	1,373
当期変動額合計	323	1,373
当期末残高	970	2,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主持分		
当期首残高	13	18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4	△6
当期変動額合計	4	△6
当期末残高	18	12
純資産合計		
当期首残高	67,739	71,647
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	3,775	2,499
自己株式の取得	△0	－
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	327	1,367
当期変動額合計	3,907	3,651
当期末残高	71,647	75,298

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	8,355	5,895
減価償却費	10,027	9,207
減損損失	182	1,830
のれん償却額	209	209
負ののれん償却額	△206	△127
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	18	△34
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9	△17
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△107	△2
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	19	△94
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6	11
受取利息及び受取配当金	△165	△170
支払利息	613	540
固定資産売却損益 (△は益)	△49	△34
固定資産除却損	162	335
投資有価証券売却損益 (△は益)	△124	0
受取保険金	△267	—
災害損失	43	—
収用補償金	—	△101
補助金収入	—	△187
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,399	15,303
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,288	3,549
その他の資産の増減額 (△は増加)	△423	△59
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,824	△15,863
その他の負債の増減額 (△は減少)	2,512	△855
その他	20	50
小計	18,517	19,383
利息及び配当金の受取額	164	170
利息の支払額	△611	△542
保険金の受取額	267	—
災害損失の支払額	△2,320	—
収用補償金の受取額	—	30
補助金の受取額	—	187
法人税等の支払額	△2,889	△4,374
法人税等の還付額	327	449
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,455	15,304

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4,280	△4,380
定期預金の払戻による収入	4,280	4,281
有形及び無形固定資産の取得による支出	△12,470	△8,695
有形及び無形固定資産の売却による収入	141	67
投資有価証券の取得による支出	△77	△71
投資有価証券の売却による収入	297	0
差入保証金の差入による支出	△6	△2
差入保証金の回収による収入	21	32
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△219	△108
その他	△35	△265
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,347	△9,141
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,155	△2,087
長期借入れによる収入	6,150	8,600
長期借入金の返済による支出	△5,906	△6,001
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△195	△214
少数株主への配当金の支払額	△0	△0
リース債務の返済による支出	△201	△209
割賦債務の返済による支出	△10	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,320	79
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,212	6,241
現金及び現金同等物の期首残高	28,303	27,091
現金及び現金同等物の期末残高	※ 27,091	※ 33,333

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

なお、(株)シルビアについては、当連結会計年度において新たに設立したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社

福吉食品（上海）有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は小規模であり、同社の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社はありません。

(2) 持分法適用の関連会社はありません。

(3) 持分法を適用していない非連結子会社（福吉食品（上海）有限公司）及び関連会社（エフアイ(株)）は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、(株)富士エコーの決算日は3月31日、また、(株)シルビア、フジパンストア(株)、九州フジパンストア(株)及び北越フジパンストア(株)の決算日は6月20日であり、連結決算日と異なります。連結財務諸表の作成に当たっては、各連結子会社の決算日現在の財務諸表を採用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引は連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

製品

売価還元法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

その他

主として最終仕入原価法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

但し、一部連結子会社の有形固定資産については、定額法を適用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～60年

機械装置及び運搬具 2～22年

- ② 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（５年）に基づいております。
- ③ リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年６月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
 - ① 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - ② 賞与引当金
従業員賞与の支給に備えるため、過去の支給実績を勘案し、当連結会計年度の負担すべき実際支給見込額を計上しております。
 - ③ 役員賞与引当金
当社及び一部の連結子会社は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - ④ 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。
なお、数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（８年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（８年）により費用処理しております。
 - ⑤ 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- (4) のれんの償却方法及び償却期間
のれん及び負ののれんの償却については、５年間の定額法により償却を行っております。
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随时引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から３ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社（一部連結子会社を除く）は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年7月1日以降に取得した有形固定資産（建物を除く）について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

(2) 適用予定日

平成26年6月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年6月期の期首から適用します。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「退職給付に関する会計基準」等の適用により、当社グループの連結財務諸表に重要な影響を及ぼす見込みです。連結貸借対照表においては、主として数理計算上の差異を発生時に認識するため純資産が変動する見込みですが、影響額については現時点で評価中であります。

(追加情報)

(ロジスティック事業における取引内容の変更)

従来、フジパングループ本社(株)の100%子会社である(株)富士エコーが行っていた日本マクドナルド(株)の商品売買及び在庫・保管・輸送管理業務について、平成24年9月より、AQロジスティクス(株)に移管され、また(株)富士エコーとAQロジスティクス(株)の間で業務委託契約を締結し、(株)富士エコーが当該業務をAQロジスティクス(株)から受託すると同時に、日本マクドナルド(株)等からの代金回収についてはAQロジスティクス(株)が行う取引へと内容が変更されたため、以降の売上及び仕入を相殺する処理をしております。

これにより、当連結会計年度の売上高及び売上原価は69,961百万円減少しておりますが、売上総利益以降の損益に与える影響はありません。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
投資有価証券(株式)	2百万円	2百万円
その他	30	90
計	32	92

※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
建物及び構築物	5,329百万円 (209百万円)	6,563百万円 (193百万円)
機械装置及び運搬具	4,311	5,315
土地	6,506 (1,210)	7,423 (1,210)
その他	0	3
計	16,147 (1,419)	19,306 (1,403)

上記のうち()内書は、工場財団抵当を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
短期借入金	5,071百万円	4,445百万円
1年内返済予定の長期借入金	3,111	3,459
長期借入金	10,103	9,939
計	18,286	17,843

3 保証債務

連結子会社以外の会社の銀行借入に対し、債務保証をしております。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
(株)ロバパン	2,561百万円 (株)ロバパン	2,340百万円
計	2,561	2,340

※4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
受取手形	27百万円	24百万円

※5 当社及び連結子会社(株)富士エコー、あけぼのパン(株)、(株)九州フジパン、(株)中国フジパン、(株)東北フジパン、タカラ食品(株)、(株)ナガイパン、(株)エフペーカリーコーポレーション、フジパンストア(株)、(株)日本デリカフレッシュ、(株)日本フーズデリカ、(株)フジデリカ)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行19行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
当座貸越極度額	46,680百万円	46,880百万円
借入実行残高	24,152	22,725
差引額	22,528	24,155

※6 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは相殺表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 6 月30日)	当連結会計年度 (平成25年 6 月30日)
のれん	423百万円	37百万円
負ののれん	191	63
差引額	232	△25

(連結損益計算書関係)

※ 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
給料手当	10,590百万円	10,510百万円
雑給	9,866	9,740
賞与	2,674	2,602
賞与引当金繰入額	89	76
退職給付費用	522	747
役員退職慰労引当金繰入額	85	96
役員賞与引当金繰入額	23	39
減価償却費	1,587	1,412
賃借料	7,050	5,963
営業業務委託費	13,570	12,703
運搬費	18,859	15,790
のれん償却額	209	209
貸倒引当金繰入額	18	△9

※ 2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
	84百万円	73百万円

※ 3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
土地	49百万円	26百万円

※ 4 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。
 前連結会計年度(自 平成23年 7 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
愛知県	遊休寮	建物及び構築物	7
		その他	63
愛媛県	工場	機械装置及び運搬具	4
東京都	遊休寮	建物及び構築物	12
愛知県他	直売店舗	建物及び構築物	16
		機械装置及び運搬具	0
		その他	1
熊本県	工場	建物及び構築物	59
		機械装置及び運搬具	17
合計			182

当社グループは、ホールセール事業、ロジスティック事業、デリカテッセン事業については各工場単位で、リテール事業については地域別の管理会計上の区分単位で、遊休資産については物件単位ごとにグループリングをしております。

工場及び直売店舗については、当初、生産及び販売の拡大を目的としたものの、需要が想定したほど拡大しなかったため、投資額に見合った収益性を確保することは困難であり、今後において投資額の回収が見込めないと判断されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、遊休寮についての回収可能価額は正味売却価額により測定しておりますが、売却や他への転用が困難であるため、ゼロとして評価しております。工場及び直売店舗についての回収可能価額は、使用価値と正味売却価額とのいずれか高い価額により測定しており、使用価値は将来キャッシュ・フローを2.3%で割り引いて算定し、正味売却価額は固定資産税評価額により算定しております。

当連結会計年度(自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
熊本県他	遊休土地	土地	48
広島県	工場	建物及び構築物	48
		機械装置及び運搬具	211
		その他	5
埼玉県	工場	建物及び構築物	62
		機械装置及び運搬具	79
		その他	7
愛知県他	直売店舗等	建物及び構築物	594
		機械装置及び運搬具	288
		土地	27
		その他	293
静岡県	工場	建物及び構築物	70
		機械装置及び運搬具	31
		土地	59
合計			1,830

当社グループは、ホールセール事業、ロジスティック事業、デリカテッセン事業については各工場単位で、リテイル事業については地域別の管理会計上の区分単位で、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングをしております。

遊休土地については、今後使用見込みがなく、土地の市場価格が著しく下落したため、また、工場及び直売店舗については、当初、生産及び販売の拡大を目的としたものの、需要が想定したほど拡大しなかったため、投資額に見合った収益性を確保することは困難であり、今後において投資額の回収が見込めないと判断されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、遊休土地についての回収可能価額は正味売却価額により測定しており、公示価格により評価しております。工場及び直売店舗についての回収可能価額は、使用価値と正味売却価額とのいずれか高い価額により測定しており、使用価値は将来キャッシュ・フローを1.7%～2.2%で割り引いて算定し、正味売却価額は固定資産税評価額により算定しております。

※5 災害による損失

当社グループは、東日本大震災により損害を受けた設備の復旧等に要する費用として災害による損失を計上しており、その内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
原状回復費用	40百万円	－百万円
復旧支援費用	2	－
計	43	－

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	394百万円	2,101百万円
組替調整額	△3	0
税効果調整前	391	2,101
税効果額	△68	△727
その他有価証券評価差額金	323	1,373
その他の包括利益合計	323	1,373

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	30,540,400	—	—	30,540,400
合計	30,540,400	—	—	30,540,400
自己株式				
普通株式(注)	10,998,198	386	—	10,998,584
合計	10,998,198	386	—	10,998,584

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加386株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成23年9月29日 定時株主総会	普通株式	195	10	平成23年6月30日	平成23年9月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年9月25日 定時株主総会	普通株式	214	利益剰余金	11	平成24年6月30日	平成24年9月26日

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	30,540,400	—	—	30,540,400
合計	30,540,400	—	—	30,540,400
自己株式				
普通株式	10,998,584	—	—	10,998,584
合計	10,998,584	—	—	10,998,584

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成24年9月25日 定時株主総会	普通株式	214	11	平成24年6月30日	平成24年9月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年9月26日 定時株主総会	普通株式	195	利益剰余金	10	平成25年6月30日	平成25年9月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	29,542百万円	35,883百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△2,451	△2,550
現金及び現金同等物	27,091	33,333

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、事業における生産設備（機械装置及び運搬具）、ホストコンピュータ及びコンピュータ端末機（工具器具備品）であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
 (単位：百万円)

	前連結会計年度（平成24年6月30日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	120	91	29
機械装置及び運搬具	47	42	5
その他	46	41	5
合計	215	175	40

(単位：百万円)

	当連結会計年度（平成25年6月30日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	120	105	15
機械装置及び運搬具	12	11	0
その他	6	4	2
合計	140	121	18

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	21	14
1年超	18	3
合計	40	18

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
支払リース料	121	20
減価償却費相当額	121	20

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金
を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、回収の状況を確認しリスク低減を図っております。ま
た、投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価や発行体の財務状況等を
把握しております。また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

買掛金はそのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

借入金の用途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。

当社及びグループ各社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより
流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成24年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	29,542	29,542	—
(2) 受取手形及び売掛金	42,542	42,542	—
(3) 投資有価証券	6,685	6,685	—
資産計	78,770	78,770	—
(1) 買掛金	31,383	31,383	—
(2) 短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を除く）（*1）	24,812	24,812	—
(3) 未払費用	14,081	14,081	—
(4) 未払法人税等	2,321	2,321	—
(5) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）（*1）	23,824	23,755	△69
負債計	96,424	96,354	△69

（*1）連結貸借対照表上短期借入金に含まれる1年内返済予定の長期借入金6,001百万円については、時価の算定の便宜上長期借入金に含めております。

当連結会計年度（平成25年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	35,883	35,883	—
(2) 受取手形及び売掛金	27,239	27,239	—
(3) 投資有価証券	8,857	8,857	—
資産計	71,980	71,980	—
(1) 買掛金	15,520	15,520	—
(2) 短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を除く）（*1）	22,725	22,725	—
(3) 未払費用	13,378	13,378	—
(4) 未払法人税等	1,521	1,521	—
(5) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）（*1）	26,422	26,313	△109
負債計	79,568	79,459	△109

（*1）連結貸借対照表上短期借入金に含まれる1年内返済予定の長期借入金6,450百万円については、時価の算定の便宜上長期借入金に含めております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金（１年内返済予定の長期借入金を除く）、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金（１年内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価は、元利金の合計額を、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュフローを適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価格により算定しております。

２．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成24年６月30日)	当連結会計年度 (平成25年６月30日)
非上場株式	167	159

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

３．金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年６月30日）

	１年以内 (百万円)	１年超 ５年以内 (百万円)	５年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	29,341	—	—	—
受取手形及び売掛金	42,542	—	—	—
合計	71,884	—	—	—

当連結会計年度（平成25年６月30日）

	１年以内 (百万円)	１年超 ５年以内 (百万円)	５年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	35,723	—	—	—
受取手形及び売掛金	27,239	—	—	—
合計	62,963	—	—	—

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度（平成24年6月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	24,812	—	—	—	—	—
長期借入金	6,001	5,467	4,860	2,831	1,222	3,442
合計	30,813	5,467	4,860	2,831	1,222	3,442

当連結会計年度（平成25年6月30日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	22,725	—	—	—	—	—
長期借入金	6,450	6,462	4,566	2,991	1,703	4,248
合計	29,175	6,462	4,566	2,991	1,703	4,248

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成24年6月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	4,865	3,049	1,815
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	4,865	3,049	1,815
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,819	2,134	△314
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,819	2,134	△314
合計		6,685	5,184	1,500

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額167百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成25年6月30日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	8,000	4,166	3,833
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	8,000	4,166	3,833
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	857	1,089	△232
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	857	1,089	△232
合計		8,857	5,255	3,601

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額159百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	297	125	1
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	297	125	1

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	0	—	0
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	0	—	0

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

当連結会計年度において、その他有価証券について30百万円減損処理を行っております。

減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

なお、非上場株式については、期末における実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合は、必要と認められた額を減損処理しております。

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

当連結会計年度において、その他有価証券について8百万円減損処理を行っております。

減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

なお、非上場株式については、期末における実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合は、必要と認められた額を減損処理しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職給付制度の98%相当額について、退職給付企業年金制度（キャッシュバランスプラン）を採用しております。

なお、一部の連結子会社において、退職給付制度の2%相当額について、退職金規定に基づく退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
(1) 退職給付債務（百万円）	△16,904	△17,230
(2) 年金資産（百万円）	14,040	18,389
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)（百万円）	△2,864	1,159
(4) 未認識数理計算上の差異（百万円）	4,030	480
(5) 未認識過去勤務債務（債務の減額）（百万円）	△214	△166
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5)（百万円）	952	1,473
(7) 前払年金費用（百万円）	1,120	1,639
(8) 退職給付引当金(6) - (7)（百万円）（注）	△168	△166

(注) 一部の子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
退職給付費用（百万円）	980	1,313
(1) 勤務費用（百万円）（注）	904	1,009
(2) 利息費用（百万円）	293	198
(3) 期待運用収益（減算）（百万円）	△263	△251
(4) 数理計算上の差異の費用処理額（百万円）	94	403
(5) 過去勤務債務の費用処理額（百万円）	△48	△48

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用の費用処理額に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
1.2%	1.2%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
2.0%	1.2%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

8年（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。）

(5) 数理計算上の差異の処理年数

8年（各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。）

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
繰延税金資産		
関係会社株式	1,984百万円	2,049百万円
繰越欠損金	1,911	2,382
減価償却超過額	1,310	1,770
減損損失	425	451
賞与引当金	281	255
資産除去債務	238	244
役員退職慰労引当金	209	174
投資有価証券	190	193
その他	928	878
繰延税金資産小計	7,481	8,400
評価性引当額	△5,724	△6,669
繰延税金負債との相殺	△1,014	△1,071
繰延税金資産の純額	742	659
繰延税金負債		
子会社の全面時価評価法による評価差額	1,295	1,295
その他有価証券評価差額金	540	1,264
前払年金費用	410	600
固定資産圧縮積立金	363	339
その他	95	46
繰延税金負債小計	2,705	3,547
繰延税金資産との相殺	△1,014	△1,071
繰延税金負債の純額	1,690	2,475

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
流動資産－繰延税金資産	563百万円	386百万円
固定資産－繰延税金資産	178	273
流動負債－その他	△22	—
固定負債－繰延税金負債	△1,668	△2,475

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当連結会計年度 (平成25年6月30日)
法定実効税率	40.4%	37.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	1.2
役員賞与引当金	0.1	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.3	△0.4
住民税等均等割額	2.4	3.1
のれん及び負ののれんの償却額	0.0	0.5
評価性引当額の増減	11.3	16.0
研究開発減税等	△0.4	△0.2
その他	1.2	△0.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	△1.1	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	54.8	57.7

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

リテイル事業店舗用建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から18年と見積り、割引率は1.3%～1.9%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
期首残高	649百万円	650百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	19	23
時の経過による調整額	9	9
資産除去債務の履行による減少額	△35	△34
その他増減額 (△は減少)	7	18
期末残高	650	666

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、商品・サービスの性質、グループの組織体制に基づき、「ホールセール事業」、「リテイル事業」、「ロジスティック事業」及び「デリカテッセン事業」の4つを報告セグメントとして分類しており、各事業が取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

「ホールセール事業」は、パン、菓子類の製造販売事業、「リテイル事業」は、パン、菓子専門店の経営及びこれらに関するコンサルティング事業、「ロジスティック事業」は、パン他食料品及び包装材料等の物流事業、「デリカテッセン事業」は、弁当、惣菜、調理パン等の製造販売事業であります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	140,765	37,491	187,135	48,079	413,472
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,608	360	13,223	388	18,581
計	145,374	37,851	200,359	48,468	432,053
セグメント利益	8,677	255	1,434	416	10,784
セグメント資産	86,034	14,535	40,576	15,631	156,778
その他の項目					
減価償却費	7,653	581	500	943	9,680
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	6,313	336	486	961	8,098

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				
	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	139,029	35,136	96,417	47,591	318,175
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,682	304	12,640	400	19,028
計	144,712	35,441	109,058	47,991	337,203
セグメント利益又は損失（△）	8,873	△445	1,454	298	10,181
セグメント資産	92,441	12,701	20,897	15,395	141,436
その他の項目					
減価償却費	7,217	470	558	858	9,104
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	10,671	355	616	722	12,365

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	432,053	337,203
セグメント間取引消去	△18,581	△19,028
連結財務諸表の売上高	413,472	318,175

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	10,784	10,181
セグメント間取引消去	2,129	2,012
全社費用（注）	△4,862	△4,839
連結財務諸表の営業利益	8,050	7,353

（注） 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	156,778	141,436
セグメント間取引消去	△2,894	△1,425
未実現利益の調整額	△9	△9
全社資産（注）	21,729	26,135
連結財務諸表の資産合計	175,604	166,137

（注） 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社ソフトウェア等であります。

（単位：百万円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	9,680	9,104	347	102	10,027	9,207
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	8,098	12,365	415	74	8,514	12,440

（注） 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しないソフトウェア等の設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	パン、菓子類	パン専門店	物流サービス	弁当、惣菜	合計
外部顧客への売上高	140,765	37,491	187,135	48,079	413,472

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本マクドナルド株式会社	74,044	ホールセール事業 ロジスティック事業

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	パン、菓子類	パン専門店	物流サービス	弁当、惣菜	合計
外部顧客への売上高	139,029	35,136	96,417	47,591	318,175

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本マクドナルド株式会社	32,017	ホールセール事業 ロジスティック事業
AQロジスティクス株式会社	36,101	ホールセール事業 ロジスティック事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
減損損失	87	17	—	76	—	182

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
減損損失	450	1,204	—	162	13	1,830

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
当期償却額	0	208	—	—	—	209
当期末残高	0	423	—	—	—	423

なお、平成22年4月1日前行われた企業結合又は子会社の企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
当期償却額	35	127	—	—	43	206
当期末残高	—	191	—	—	—	191

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
当期償却額	0	208	—	—	—	209
当期減損損失	—	176	—	—	—	176
当期末残高	0	37	—	—	—	37

なお、平成22年4月1日前行われた企業結合又は子会社の企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	ホールセール事業	リテイル事業	ロジスティック事業	デリカテッセン事業	全社・消去	合計
当期償却額	—	127	—	—	—	127
当期末残高	—	63	—	—	—	63

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要株主	富士ビル(株) (注2)	名古屋市 瑞穂区	60	不動産賃貸業	(被所有) 直接 11.9	建物の賃借	本社事務所の賃借 (注1)	37	—	—

上記取引金額には消費税等を含んでおりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 賃借料は近隣の取引実勢等に基づき、協議の上決定しております。

2. 当社の個人主要株主である舟橋宣子及びその近親者が100%を所有しており、代表取締役を舟橋宣子が務めております。

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要株主	富士ビル(株) (注2)	名古屋市 瑞穂区	60	不動産賃貸業	(被所有) 直接 12.0	建物の賃借	本社事務所の賃借 (注1)	37	差入保証金	54

上記取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 賃借料は近隣の取引実勢等に基づき、協議の上決定しております。

2. 当社の個人主要株主である舟橋宣子及びその近親者が100%を所有しており、代表取締役を舟橋宣子が務めております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
個人主要株主及びその近親者	舟橋宣子	—	—	—	(被所有) 直接 11.5	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	11	—	—
	舟橋一輝	—	—	—	(被所有) 直接 1.4	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	3	—	—
	舟橋康太	—	—	—	(被所有) 直接 1.4	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	3	—	—
	安田とし子	—	—	—	(被所有) 直接 2.8	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	2	—	—
	舟橋初花	—	—	—	(被所有) 直接 1.8	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	2	—	—
個人主要株主及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	松園(有)(注2)	名古屋市瑞穂区	10	不動産賃貸業	(被所有) 直接 2.5	建物の賃借 土地の賃貸	従業員寮の賃借(注1) 従業員寮土地の賃貸(注1)	23 6	— —	— —

上記取引金額には消費税等を含んでおりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 近隣の取引実勢等に基づき、協議の上決定しております。

2. 当社の個人主要株主である舟橋宣子及びその近親者が100%を所有しており、代表取締役を舟橋宣子が務めております。

当連結会計年度（自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
個人主要株主及びその近親者	舟橋宣子	—	—	—	(被所有) 直接 11.4	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	11	差入保証金	4
	舟橋一輝	—	—	—	(被所有) 直接 1.4	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	3	差入保証金	1
	舟橋康太	—	—	—	(被所有) 直接 1.4	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	3	差入保証金	1
	安田とし子	—	—	—	(被所有) 直接 2.8	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	2	差入保証金	0
	舟橋初花	—	—	—	(被所有) 直接 1.7	建物の賃借	従業員寮の賃借(注1)	2	差入保証金	0
個人主要株主及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	松園(有)(注2)	名古屋市瑞穂区	10	不動産賃貸業	(被所有) 直接 2.5	建物の賃借 土地の賃貸	従業員寮の賃借(注1) 従業員寮土地の賃貸(注1)	23 6	差入保証金 —	9 —

上記取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 近隣の取引実勢等に基づき、協議の上決定しております。

2. 当社の個人主要株主である舟橋宣子及びその近親者が100%を所有しており、代表取締役を舟橋宣子が務めております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
1株当たり純資産額	3,665.44円	3,852.60円
1株当たり当期純利益金額	193.21円	127.88円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益金額(百万円)	3,775	2,499
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額(百万円)	3,775	2,499
期中平均株式数(千株)	19,541	19,541

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	24,812	22,725	0.988	—
1年内返済予定の長期借入金	6,001	6,450	1.109	—
1年内返済予定のリース債務	204	185	—	—
長期借入金（1年内返済予定のものを除く）	17,822	19,972	1.109	平成26年～37年
リース債務（1年内返済予定のものを除く）	293	336	—	平成26年～34年
その他有利子負債	—	—	—	—
計	49,135	49,669	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務（1年内返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	6,462	4,566	2,991	1,703
リース債務	101	68	23	18

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 ①【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 6 月30日)	当事業年度 (平成25年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,391	18,391
繰延税金資産	42	29
短期貸付金	※2 9,850	※2 8,500
未収入金	454	443
未収還付法人税等	343	287
その他	204	119
貸倒引当金	△44	△130
流動資産合計	26,243	27,641

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当事業年度 (平成25年6月30日)
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 30,642	※1 33,279
減価償却累計額	△21,654	△22,388
建物（純額）	※1 8,987	※1 10,891
構築物	491	643
減価償却累計額	△309	△352
構築物（純額）	182	291
機械及び装置	5	4
減価償却累計額	△5	△4
機械及び装置（純額）	0	0
車両運搬具	36	35
減価償却累計額	△29	△28
車両運搬具（純額）	7	6
工具、器具及び備品	372	411
減価償却累計額	△297	△309
工具、器具及び備品（純額）	75	102
土地	※1 13,484	※1 14,054
リース資産	600	605
減価償却累計額	△308	△395
リース資産（純額）	292	210
建設仮勘定	829	152
有形固定資産合計	23,858	25,708
無形固定資産		
借地権	11	11
ソフトウェア	419	795
リース資産	8	5
ソフトウェア仮勘定	431	28
施設利用権	0	1
無形固定資産合計	871	840
投資その他の資産		
投資有価証券	5,436	7,279
関係会社株式	12,666	12,538
出資金	3	3
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	0	2
差入保証金	253	236
その他	773	1,040
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	19,133	21,100
固定資産合計	43,863	47,650
資産合計	70,106	75,291

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当事業年度 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	※1, ※4 7,800	※1, ※4 7,800
1年内返済予定の長期借入金	※1 4,163	※1 4,654
リース債務	141	116
未払金	53	257
未払費用	489	421
未払法人税等	45	46
未払消費税等	17	—
預り金	95	104
役員賞与引当金	24	31
その他	73	2
流動負債合計	12,905	13,433
固定負債		
長期借入金	※1 8,739	※1 10,084
リース債務	188	121
長期未払金	1	10
繰延税金負債	172	826
役員退職慰労引当金	292	192
長期預り保証金	565	548
固定負債合計	9,958	11,784
負債合計	22,864	25,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,682	4,682
資本剰余金		
資本準備金	4,769	4,769
その他資本剰余金	2,508	2,508
資本剰余金合計	7,277	7,277
利益剰余金		
利益準備金	1,170	1,170
その他利益剰余金		
合理化積立金	200	200
固定資産圧縮積立金	499	489
別途積立金	43,287	45,787
繰越利益剰余金	3,338	2,494
利益剰余金合計	48,495	50,141
自己株式	△13,861	△13,861
株主資本合計	46,594	48,240
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	648	1,832
評価・換算差額等合計	648	1,832
純資産合計	47,242	50,073
負債純資産合計	70,106	75,291

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
営業収益		
不動産賃貸収入	※1 2,488	※1 2,092
経営指導料収入	※1 850	※1 810
関係会社受取配当金収入	1,992	1,811
営業収益合計	5,331	4,714
営業費用		
不動産賃貸費用	1,466	1,298
一般管理費	※2, ※3 1,475	※2 1,596
営業費用合計	2,941	2,894
営業利益	2,389	1,819
営業外収益		
受取利息	※1 279	※1 262
受取配当金	130	137
債務保証料収入	※1 164	※1 141
負ののれん償却額	43	—
雑収入	106	185
営業外収益合計	724	727
営業外費用		
支払利息	251	236
固定資産除売却損	25	27
貸倒引当金繰入額	4	85
雑損失	1	0
営業外費用合計	281	350
経常利益	2,832	2,196
特別利益		
固定資産売却益	※4 43	—
投資有価証券売却益	125	—
収用補償金	—	101
補助金収入	—	46
災害損失引当金戻入額	31	—
その他	21	1
特別利益合計	222	149
特別損失		
減損損失	※5 110	※5 116
投資有価証券評価損	30	8
子会社株式評価損	—	177
その他	5	6
特別損失合計	146	308
税引前当期純利益	2,909	2,037
法人税、住民税及び事業税	93	137
法人税等調整額	330	39
法人税等合計	424	176

当期純利益	2,485	1,861
-------	-------	-------

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	4,682	4,682
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,682	4,682
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	4,769	4,769
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,769	4,769
その他資本剰余金		
当期首残高	2,508	2,508
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,508	2,508
資本剰余金合計		
当期首残高	7,277	7,277
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	7,277	7,277

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	1,170	1,170
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,170	1,170
その他利益剰余金		
合理化積立金		
当期首残高	200	200
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	200	200
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	472	499
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	41	—
固定資産圧縮積立金の取崩	△14	△9
当期変動額合計	26	△9
当期末残高	499	489
別途積立金		
当期首残高	42,787	43,287
当期変動額		
別途積立金の積立	500	2,500
当期変動額合計	500	2,500
当期末残高	43,287	45,787
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,575	3,338
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	2,485	1,861
固定資産圧縮積立金の積立	△41	—
固定資産圧縮積立金の取崩	14	9
別途積立金の積立	△500	△2,500
当期変動額合計	1,762	△844
当期末残高	3,338	2,494
利益剰余金合計		
当期首残高	46,206	48,495
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	2,485	1,861
固定資産圧縮積立金の積立	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—
当期変動額合計	2,289	1,646
当期末残高	48,495	50,141

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
自己株式		
当期首残高	△13,860	△13,861
当期変動額		
自己株式の取得	△0	—
当期変動額合計	△0	—
当期末残高	△13,861	△13,861
株主資本合計		
当期首残高	44,305	46,594
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	2,485	1,861
自己株式の取得	△0	—
当期変動額合計	2,288	1,646
当期末残高	46,594	48,240
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	408	648
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	239	1,184
当期変動額合計	239	1,184
当期末残高	648	1,832
純資産合計		
当期首残高	44,714	47,242
当期変動額		
剰余金の配当	△195	△214
当期純利益	2,485	1,861
自己株式の取得	△0	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	239	1,184
当期変動額合計	2,527	2,830
当期末残高	47,242	50,073

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～54年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年7月1日以降に取得した有形固定資産（建物を除く）について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年6月30日)		当事業年度 (平成25年6月30日)	
建物	1,805	百万円 (209)	3,287	百万円 (193)
土地	1,402	(1,210)	2,361	(1,210)
計	3,207	(1,419)	5,648	(1,403)

上記のうち () 内書は工場財団抵当を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年6月30日)		当事業年度 (平成25年6月30日)	
短期借入金	800	百万円	—	百万円
1年内返済予定の長期借入金	1,967		2,220	
長期借入金	3,005		2,379	
計	5,773		4,600	

※2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年6月30日)		当事業年度 (平成25年6月30日)	
流動資産				
短期貸付金	9,850	百万円	8,500	百万円

3 保証債務

(1) 債務保証

当社は次の者の銀行借入等に対し、債務保証をしております。なお、これらは(株)ロバパンを除き当社の関係会社であります。

	前事業年度 (平成24年6月30日)		当事業年度 (平成25年6月30日)	
(株)九州フジパン	7,200	百万円	(株)九州フジパン	6,563
(株)東北フジパン	6,000		(株)東北フジパン	6,000
(株)エフベーカーリーコーポレーション	3,547		(株)エフベーカーリーコーポレーション	5,013
(株)中国フジパン	2,759		(株)中国フジパン	2,719
(株)ロバパン	2,561		(株)ロバパン	2,340
(株)富士エコー	1,300		(株)富士エコー	186
(株)日本デリカフフレッシュ	2,229		(株)日本デリカフフレッシュ	2,145
(株)日本フーズデリカ	1,800		(株)日本フーズデリカ	1,800
(株)フジデリカ	1,000		(株)フジデリカ	1,000
(株)ナガイパン	500		(株)ナガイパン	460
あけぼのパン(株)	456		あけぼのパン(株)	305
タカラ食品(株)	329		タカラ食品(株)	200
計	29,683		計	28,734

(2) 連帯債務

当社は次の者の銀行借入に対し、連帯債務を負っております。

前事業年度 (平成24年6月30日)		当事業年度 (平成25年6月30日)	
(株)日本デリカフレッシュ	351百万円	(株)日本デリカフレッシュ	301百万円
計	351	計	301

※4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行12行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当事業年度 (平成25年6月30日)
当座貸越極度額	17,600百万円	17,600百万円
借入実行残高	7,800	7,800
差引額	9,800	9,800

(損益計算書関係)

※ 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
不動産賃貸収入	2,457百万円	2,056百万円
経営指導料収入	850	810
受取利息	275	259
債務保証料収入	150	129

※ 2 一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
給料手当	344百万円	248百万円
役員報酬	136	186
賞与	94	101
退職給付費用	△6	104
役員退職慰労引当金繰入額	32	33
役員賞与引当金繰入額	20	31
法定福利費	114	109
消耗品費	67	80
修繕費	38	86
租税公課	51	80
特許権使用料	103	110

(表示方法の変更)

「消耗品費」、「修繕費」、「租税公課」は、一般管理費の合計額の100分の5を超えたため、当事業年度より主要な費目として表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度におきましても主要な費目として表示しております。

※ 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
	0百万円	－百万円

※ 4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
土地	43百万円	－百万円

※ 5 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度（自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月30日）

場所	用途	種類	減損損失
愛知県	賃貸建物	建物	7百万円
		その他	63百万円
熊本県	賃貸建物	建物	39百万円
合計			110百万円

当社は、賃貸物件については各工場単位で、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングをしております。

賃貸物件について、経営環境の変化により投資額の回収が見込めないと判断されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、賃貸建物についての回収可能価額は、使用価値と正味売却価額とのいずれか高い価額により測定しており、使用価値は将来キャッシュ・フローを2.3%で割り引いて算定し、正味売却価額は固定資産税評価額により算定しております。

当事業年度（自 平成24年 7月 1日 至 平成25年 6月30日）

場所	用途	種類	減損損失
熊本県	遊休土地	土地	3百万円
鳥取県	遊休土地	土地	3百万円
静岡県	賃貸建物	建物	42百万円
	賃貸土地	土地	59百万円
石川県	遊休土地	土地	7百万円
合計			116百万円

当社は、賃貸物件については各工場単位で、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングをしております。

賃貸物件について、経営環境の変化により投資額の回収が見込めないと判断されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、賃貸物件についての回収可能価額は、使用価値と正味売却価額とのいずれか高い価額により測定しており、使用価値は将来キャッシュ・フローを1.7%で割り引いて算定し、正味売却価額は固定資産税評価額及び公示価格により算定しております。遊休土地についての回収可能価額は正味売却価額により測定しており、公示価格により評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	10,998,198	386	—	10,998,584
合計	10,998,198	386	—	10,998,584

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加386株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	10,998,584	—	—	10,998,584
合計	10,998,584	—	—	10,998,584

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、ホストコンピュータ及びコンピュータ端末機(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年6月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
(単位: 百万円)

	前事業年度(平成24年6月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	34	32	2
合計	34	32	2

(単位: 百万円)

	当事業年度(平成25年6月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	—	—	—
合計	—	—	—

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 6 月30日)	当事業年度 (平成25年 6 月30日)
未経過リース料期末残高相当額		
1 年内	1	—
1 年超	0	—
合計	2	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 7 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当事業年度 (自 平成24年 7 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
支払リース料	46	1
減価償却費相当額	46	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,536百万円、関連会社株式2百万
円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,664百万円、関連会社株式2百万円)は、市場価格がなく、
時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当事業年度 (平成25年6月30日)
繰延税金資産		
関係会社株式	2,018百万円	2,082百万円
減価償却超過額	466	490
投資有価証券	156	159
減損損失	122	126
役員退職慰労引当金	103	68
未払退職給付費用	—	58
貸倒引当金	14	45
ゴルフ会員権	34	34
寄付修正	20	25
ソフトウェア	28	19
一括償却資産	19	12
その他	35	27
繰延税金資産小計	3,020	3,150
評価性引当額	△2,412	△2,491
繰延税金負債との相殺	△564	△629
繰延税金資産の純額	42	29
繰延税金負債		
其他有価証券評価差額金	353	981
固定資産圧縮積立金	273	268
前払年金費用	106	206
その他	3	0
繰延税金負債小計	736	1,456
繰延税金資産との相殺	△564	△629
繰延税金負債の純額	172	826

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当事業年度 (平成25年6月30日)
法定実効税率 (調整)	40.4%	37.7%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7	0.7
役員賞与引当金	0.3	0.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△28.3	△34.3
住民税均等割等	0.1	0.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8	—
負ののれん償却額	△0.6	—
寄付修正	△0.5	—
土地収用特別控除	△0.6	△0.0
評価性引当額の増減	2.1	3.9
その他	0.2	△0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	14.6	8.7

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
1株当たり純資産額	2,417.52円	2,562.36円
1株当たり当期純利益金額	127.16円	95.23円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)	当事業年度 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)
当期純利益金額(百万円)	2,485	1,861
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額(百万円)	2,485	1,861
期中平均株式数(千株)	19,541	19,541

④【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）
		(株)十六銀行	9,597,000	3,474
		(株)バロー	373,900	689
		McDonald's Corporation	54,779	537
		イオン(株)	344,025	447
		(株)平和堂	183,594	306
		(株)イズミ	67,246	180
		ユニー(株)	207,545	138
		日本マクドナルドホールディングス(株)	45,621	125
		(株)ヤマナカ	164,345	122
		(株)オークワ	104,551	105
		(株)東武ストア	378,884	100
		(株)カネカ	150,000	98
		(株)セブン&アイ・ホールディングス	25,000	90
		(株)マルエツ	272,910	83
		ミニストップ(株)	49,100	80
		原信ナルスホールディングス(株)	44,700	75
		マックスバリュ中部(株)	63,311	57
		その他48銘柄	747,782	565
		計	12,874,297	7,279

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残 高 (百万円)
有形固定資産							
建物	30,642	2,813	176 (42)	33,279	22,388	902	10,891
構築物	491	152	—	643	352	43	291
機械及び装置	5	—	0	4	4	0	0
車両運搬具	36	2	4	35	28	3	6
工具、器具及び備品	372	64	25	411	309	36	102
土地	13,484	644	73 (73)	14,054	—	—	14,054
リース資産	600	54	49	605	395	136	210
建設仮勘定	829	2,314	2,991	152	—	—	152
有形固定資産計	46,463	6,045	3,320 (116)	49,188	23,479	1,122	25,708
無形固定資産							
借地権	11	—	—	11	—	—	11
ソフトウェア	674	605	10	1,268	473	228	795
リース資産	18	—	—	18	13	3	5
ソフトウェア仮勘定	431	105	508	28	—	—	28
施設利用権	1	0	0	1	0	0	1
無形固定資産計	1,136	711	520	1,328	487	232	840
長期前払費用	2	2	—	5	2	0	2
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加のうち主なものは次のとおりです。

建物	1,831	(株)エフバーカリーコーポレーション滋賀事業所 賃貸用建物
----	-------	-------------------------------

3. 建設仮勘定の当期増加額及び当期減少額は主として、上記(注)2.に記載した建物の増加内容と同様であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	44	85	—	—	130
役員賞与引当金	24	31	24	—	31
役員退職慰労引当金	292	33	62	70	192

(注) 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」のうち14百万円は、従来、当社で負担していたものをフジパン株式会社で負担することになったものであり、56百万円は、目的使用の際に戻入益が発生したものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 流動資産

イ. 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	1
預金	
当座預金	33
通知預金	17,207
定期預金	1,150
小計	18,390
合計	18,391

ロ. 短期貸付金

相手先	金額 (百万円)
フジパン(株)	7,600
(株)東北フジパン	550
北越フジパンストアー(株)	350
合計	8,500

② 固定資産
関係会社株式

銘柄	金額（百万円）
フジパンストア(株)	3,874
あけぼのパン(株)	3,170
フジパン(株)	2,000
(株)富士エコー	1,400
タカラ食品(株)	513
その他	1,580
合計	12,538

③ 流動負債
イ. 短期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)十六銀行	1,500
(株)三井住友銀行	1,400
(株)三菱東京UFJ銀行	900
農林中央金庫	800
その他	3,200
合計	7,800

ロ. 一年内返済予定の長期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)十六銀行	1,008
農林中央金庫	911
(株)三井住友銀行	494
(株)三菱東京UFJ銀行	493
(株)みずほ銀行	430
その他	1,315
合計	4,654

④ 固定負債
長期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)十六銀行	2,300
農林中央金庫	1,781
(株)三菱東京U F J 銀行	1,028
(株)三井住友銀行	958
(株)みずほ銀行	945
その他	3,071
合計	10,084

（３）【その他】
該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで
定時株主総会	9月中
基準日	6月30日
株券の種類	10,000株券、1,000株券、500株券、100株券、50株券、10株券、5株券、1株券
剰余金の配当の基準日	6月30日
1単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地 フジパングループ本社株式会社 なし なし 無料 有料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	名古屋市瑞穂区松園町一丁目50番地 フジパングループ本社株式会社 なし なし 無料
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	特になし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第66期）（自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日）平成24年9月26日東海財務局長に提出

(2) 半期報告書

事業年度（第67期中）（自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日）平成25年3月25日東海財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成25年9月27日

フジパングループ本社 株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松岡正明 印
--------------------	-------	--------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小川薫 印
--------------------	-------	-------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているフジパングループ本社株式会社の平成24年7月1日から平成25年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フジパングループ本社株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年9月27日

フジパングループ本社 株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松岡正明	印
--------------------	-------	------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小川薫	印
--------------------	-------	-----	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているフジパングループ本社株式会社の平成24年7月1日から平成25年6月30日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フジパングループ本社株式会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。